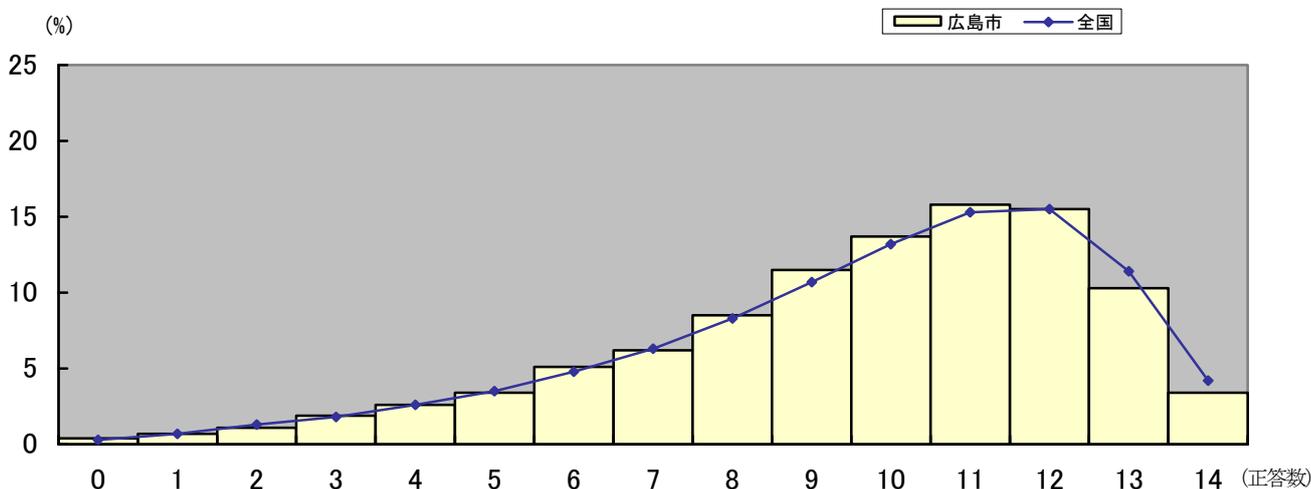


【中学校国語】

国語

【正答数の分布状況】



【学習指導要領の内容ごとの定着状況】

学習指導要領の内容		平均正答率(%)	
		全国	広島市
教科全体		69.0	69
知識及び技能	言葉の特徴や使い方に関する事項	72.2	71.2
	情報の扱い方に関する事項	46.5	44.2
	我が国の言語文化に関する事項	70.2	70.5
思考力、判断力、表現力等	話すこと・聞くこと	63.9	64.6
	書くこと	46.5	44.2
	読むこと	67.9	68.2

【評価の観点ごとの定着状況】

評価の観点	平均正答率(%)	
	全国	広島市
知識・技能	69.0	68.3
思考・判断・表現	62.3	62.4

【問題形式による定着状況】

問題形式	平均正答率(%)	
	全国	広島市
選択式	73.7	74.0
短答式	70.3	68.7
記述式	57.4	57.3

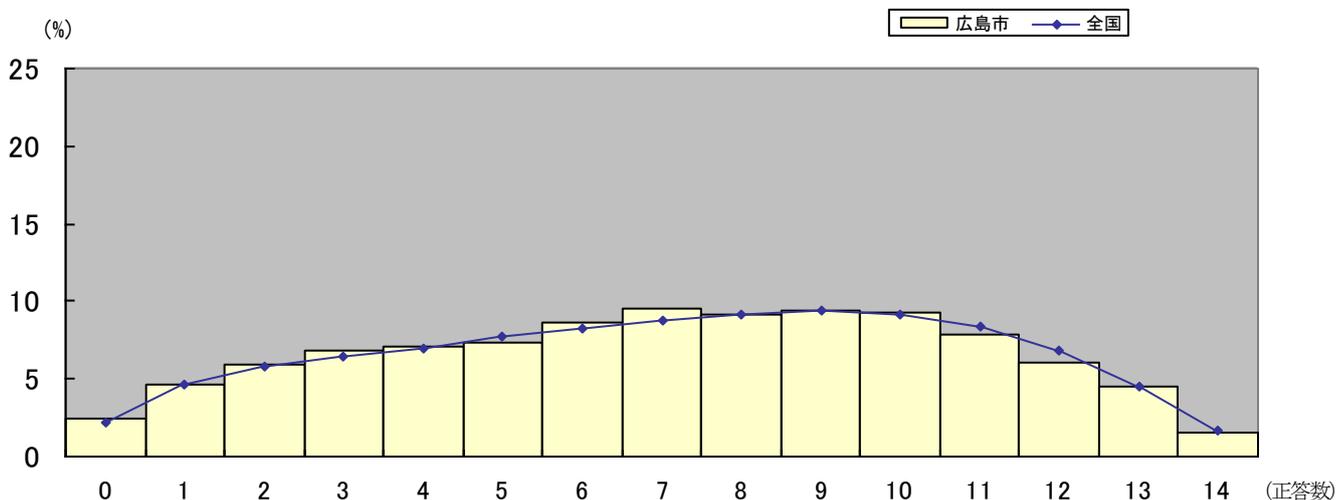
定着状況等

- ◆ 教科全体の平均正答率は、全国平均とほぼ同じである。
- ◆ 全国平均と同様に、分布が右よりの山形となっている。
- ◆ 知識及び技能「言葉の特徴や使い方に関する事項」、「我が国の言語文化に関する事項」については、平均正答率がそれぞれ71.2%、70.5%で、学習内容はおおむね定着していると見られるが、比喩などの表現の技法について理解すること（正答率：45.1%）に課題がある。
- ◆ 知識及び技能「情報の扱い方に関する事項」、思考力、判断力、表現力等「書くこと」については、ともに平均正答率が44.2%であり、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くこと（正答率：44.2%）に課題がある。
- ◆ 思考力、判断力、表現力等「話すこと・聞くこと」、「読むこと」については、平均正答率がそれぞれ64.6%、68.2%で、学習内容はおおむね定着していると見られる。
- ◆ 評価の観点では、知識・技能は全国平均をやや下回っており、思考・判断・表現はほぼ同じである。
- ◆ 問題形式別では、選択式と記述式は全国平均とほぼ同じで、短答式はやや下回っている。

【中学校数学】

数学

【正答数の分布状況】



【領域ごとの定着状況】

領域	平均正答率(%)	
	全国	広島市
教科全体	51.4	51
数と式	57.4	54.6
図形	43.6	42.9
関数	43.6	42.0
データの活用	57.1	60.2

【評価の観点ごとの定着状況】

評価の観点	平均正答率(%)	
	全国	広島市
知識・技能	59.9	58.5
思考・判断・表現	36.2	36.4

【問題形式による定着状況】

問題形式	平均正答率(%)	
	全国	広島市
選択式	52.6	52.3
短答式	65.7	63.4
記述式	36.2	36.4

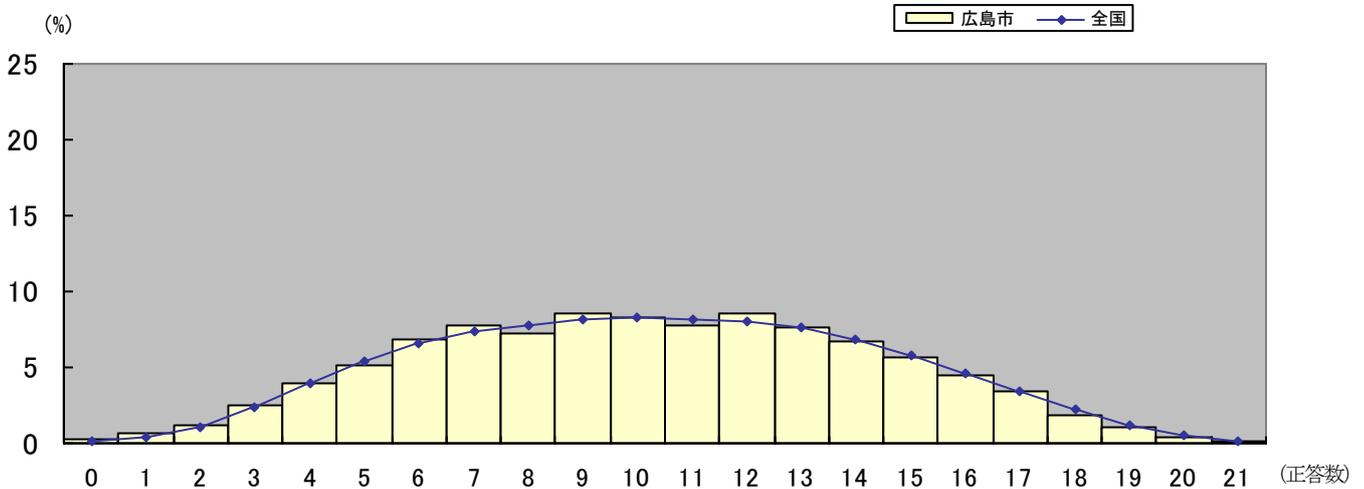
定着状況等

- ◆ 教科全体の平均正答率は、全国平均とほぼ同じである。
- ◆ 全国平均と同様に、分布がなだらかな山形となっている。
- ◆ 「数と式」については、平均正答率が54.6%であり、自然数を素数の積で表すこと（正答率：43.9%）や目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明すること（正答率：45.2%）に課題がある。
- ◆ 「図形」については、平均正答率が42.9%であり、筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明すること（正答率：11.0%）に課題がある。
- ◆ 「関数」については、平均正答率が42.0%であり、一次関数の変化の割合の意味を理解すること（正答率：33.2%）や事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること（正答率：38.6%）に課題がある。
- ◆ 「データの活用」については、平均正答率が60.2%で、学習内容はおおむね定着していると見られる。
- ◆ 評価の観点では、知識・技能は全国平均をやや下回っており、思考・判断・表現はほぼ同じである。
- ◆ 問題形式別では、選択式と記述式は全国平均とほぼ同じで、短答式はやや下回っている。

【中学校理科】

理科

【正答数の分布状況】



【学習指導要領の領域ごとの定着状況】

学習指導要領の領域	平均正答率(%)	
	全国	広島市
教科全体	49.3	49
エネルギー	41.9	41.1
粒子	50.9	49.2
生命	57.9	58.7
地球	44.3	44.3

【評価の観点ごとの定着状況】

評価の観点	平均正答率(%)	
	全国	広島市
知識・技能	46.1	43.7
思考・判断・表現	51.0	51.4

【問題形式による定着状況】

問題形式	平均正答率(%)	
	全国	広島市
選択式	49.6	48.5
短答式	24.8	25.8
記述式	53.5	54.5

定着状況等

- ◆ 教科全体の平均正答率は、全国平均とほぼ同じである。
- ◆ 全国平均と同様に、分布が中央によったなだらかな山形となっている
- ◆ 「エネルギー」を柱とする領域については、平均正答率が41.1%であり、日常生活や社会の中で物体が静電気を帯びる現象について、静電気に関する知識及び技能を活用すること（正答率40.1%）、考察の妥当性をたかめるために、測定値の増やし方について、測定する範囲と刻み幅の視点から実験の計画を検討して改善すること（正答率44.8%）に課題がある。
- ◆ 「粒子」を柱とする領域については、平均正答率が49.2%であり、粒子の保存性の観点から化学変化に関わる水の質量が変化しないことを、分析して解釈すること（正答率58.1%）、液体が気体に変化することによって温度が下がる身近な事象について、状態変化に関する知識及び技能を活用すること（正答率34.6%）に課題がある。
- ◆ 「生命」を柱とする領域については、平均正答率が58.7%であり、予想や仮説と個なる結果が出る場合について、結果の意味を考え、観察、実験の操作や条件の制御などの探究の方法について検討し、探究の過程の見通しを持つこと（正答率53.8%）に課題がある。
- ◆ 「地球」を柱とする領域については、平均正答率が44.3%であり、玄武岩の露頭で化石が観察できるかについて、岩石に関する知識及び技能を活用すること（正答率46.3%）に課題がある。
- ◆ 評価の観点では、知識・技能は全国平均をやや下回っており、思考・判断・表現はほぼ同じである。
- ◆ 問題形式別では、選択式は全国平均をやや下回っており、短答式と記述式はやや上回っている。